

論談敵対御書

弘長二年 四一歳

論談敵対の時、二口三口に及ばず、一言二言を以て退屈せしめ了んぬ。所謂善光寺道
阿弥陀仏・長安寺能安等是なり。其の後は唯悪口を加へ、無知の道俗を相語らひ、留難
を作さしむ。或は国々の地頭等を語らひ、或は事を権門に寄せ、或は昼夜に私宅を打ち、
或は杖木を加へ、或は刀杖に及び、或は貴人に向かつて謗法者・邪見者・悪口者・犯禁
者等の狂言を云ふこと其の数を知らず。終に去年五月十二日戌時、念仏者並びに塗師・
冠師・雑人等